集会アピール（案）

昨年１０月２９日、日米政府は、「日米同盟：未来のための変革と再編」、いわゆる“在日米軍再編の「中間報告」”を発表しました。今月末の合意に向け日米政府間で協議されており、今まさに正念場を迎えています。この「中間報告」には、テロ攻撃等を想定した「新たな脅威」、中国や北朝鮮を念頭においていると思われる「アジア太平洋地域における不透明性・不確実性を生み出す課題」などを「日米共通の政略目標」として掲げています。そのうえで、①在日米軍の維持・増強、②在日米軍への日本の切れ目のない支援、③米軍と自衛隊の一体化促進のための情報の共有、基地の共用、共同訓練の増強－などを盛り込んでいます。さらには、キャンプ座間への米陸軍第１軍団の司令部移転、米軍横田基地への航空自衛隊総司令部移設をはじめ、在日米軍に対する日本の支援体制強化・最前線基地化が約束されようとしています。他方では、横須賀への原子力空母配置も日本政府はついに受け入れました。

千歳基地へのＦ１５戦闘機訓練移転もこうした情勢下で強引に推し進められようとしています。Ｆ１５戦闘機訓練の移転理由として、騒音の軽減など沖縄の基地負担軽減があげられています。しかし、嘉手納基地周辺の住民が訴えているように、すさまじい爆音・騒音被害のみならず、１月１７日にも発生したように訓練中の事故も多発しているのが現状です。多くの住民が訓練移転に不安感を抱くのも当然のことです。道内においても、この間、自衛隊の演習・訓練による迫撃砲の越境事件、Ｆ１５戦闘機の接触事故による部品落下、陸上自衛隊ヘリによる同様の部品落下などの事故が相次いでいます。また、１９９７年以降、矢臼別に海兵隊の実弾演習が移転されていますが、沖縄と「同質・同量」との当初の約束は反故にされ、訓練の規模は拡大し続けています。

私たちは、日米政府による在日米軍基地再編・日米軍事同盟の一層の強化、さらには爆音を撒き散らし、事故を多発させ、住民に計り知れない不安・生命の危険すらもたらす訓練の移転案は断じて認めることはできません。改めて、再編計画案の全面白紙撤回を強く求めます。

また、明日から矢臼別で行われる「日米冬季実動訓練」もこうした流れの中で一層強化されようとしていることは明らかです。実戦さながらの戦闘が繰り広げられます。北海道を米軍の一大拠点・前進基地にしないため、引き続き全力で闘うことを誓い合い、集会アピールとします。

２００６年3月４日

在日米軍再編反対・Ｆ１５戦闘機訓練の千歳移転反対・
日米冬季実動訓練反対　全道集会